第 8 章 松山遺跡の調査

Ⅰ 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高 9 ～ 10 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 500 m、東西 600 m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の 250 m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約 350m の比高差 9 mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

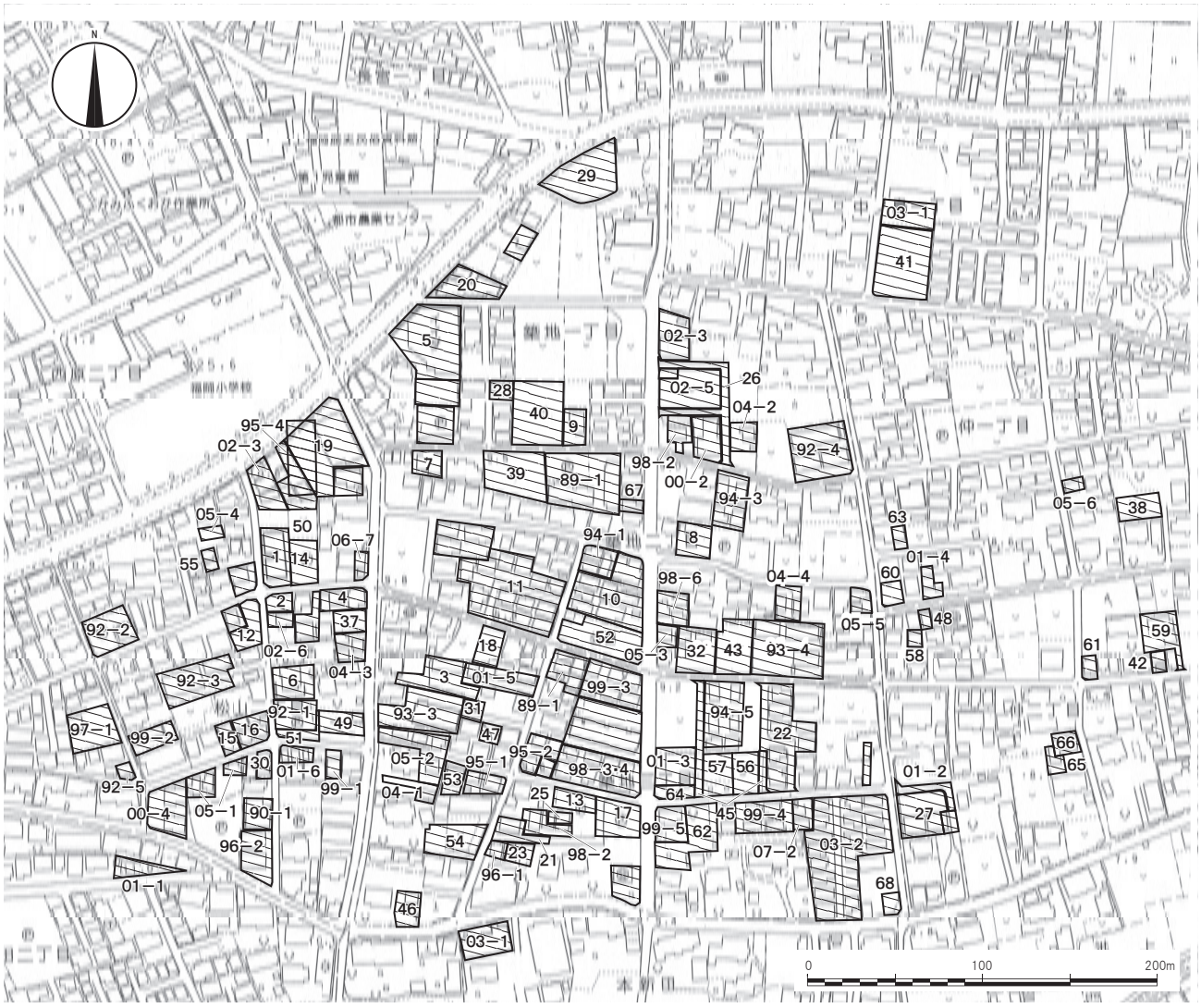
1978 年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約 100 ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西 240m、南北 210m 程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、2007 年、遺跡範囲の変更増補を行った。

Ⅱ　松山遺跡第 61 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 4 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 16 日から 19 日まで、幅約 1 mのトレンチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、



第 19 図　松山遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第 14 表　松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間( )は試掘調査	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05試(1)	松山2-2-4の一部	(2005.4.6～7)	313	土地分譲	なし	市内1
05試(2)	築地3-1-32,34,43	(2005.4.19～21)	549	土地分譲	なし	市内1
05試(3)	築地2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	なし	市内1
31次	築地3-1-69	2005.6.14～23(2005.6.9～13)	120	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
05試(8)	築地2-5-3	(2005.8.30～9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	市内1
32次	築地2-5-3の一部	2005.9.8～13(2005.8.30～9.7)	132	個人住宅	平安住居跡2	市内1
05試(5)	築地2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	なし	市内1
05試(4)	松山2-4-23	(2005.10.20～21)	161	個人住宅	なし	市内1
05試(6)	仲1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	なし	市内1
05試(7)	松山2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	なし	市内2
37	松山2-6-10,13	(2006.4.13)	228	個人住宅	なし	市内3
38	仲1-4-3,9,12,13,24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	なし	市内3
39	築地2-3-10	(2007.1.10～20)	937	宅地造成	なし	市内3
40	築地1-1-5	(2007.2.2～8)2.21～3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島1-2-5	(2007.2.7～9)2.21～3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	なし	市内3
43	築地2-5-2	(2007.4.11～24)	668	分譲住宅	堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点	市内4
44	築地3-2-10,2-14	(2008.6.9～11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地3-4-7の一部外	2008.10.1～23(2008.9.4～30)	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代竪穴住居跡2、掘立柱建物跡2、竪穴状遺構1、時期不明の溝10、土坑、ピット	市内6
46	築地3-1-33の一部,1-35の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地3-1-52	(2009.5.11,12)	121	個人住宅	ピット	市内8
48	仲2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山2-6-1,14,22の一部	(2009.10.17～22)2009.10.27～11.18	449	宅地造成	平安時代竪穴住居跡1(住居内鍛冶炉検出)、土坑1、溝1、ピット1	市内8
50	松山2-5-3,17	(2009.11.27～12.1)	797	分譲住宅	溝1、ピット7	市内8
51	松山2-6-22,23,28の一部	(2010.5.10～13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地2-2-1	(2010.8.26～9.3)	694	分譲住宅	溝1、落とし穴1、工事立会	市内10
53	築地3-1-11	(2010.9.10～21)	205	個人住宅	近代以降の溝3、アナグラ1、慎重工事	市内10
54	築地3-1-6,76～83	(2010.9.21～10.1)2010.10.4～11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡3確認、西側1の住居は盛土保存、他2は本調査	市内9
55	松山2-4-24の一部	(2011.1.17)1.18～1.31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡1、掘立柱建物跡1、本調査	市内10
56	築地3-4-7,4-8の一部	(2011.4.4～14)4.11～15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡2他、本調査(一部工事立会)	市内11
57	築地3-4-47	(20011.4.4～15)	241	分譲住宅	隣接する45地点から続くH34号住居跡と溝、遺物なし	市内14
58	仲2-2-31	(2011.6.6～8)6.14	115	個人住宅	井戸1、溝1、ピット1、本調査	市内14
59	仲2-3-6、3-9	(2011.8.8･9)8.10･11	560	個人住宅	土坑2、溝3、縄文土器、須恵器、本調査	市内14
60	仲1-1-15	(2012.3.26･27)	165	個人住宅	堀跡1、溝1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内14
61	仲2-3-3	(2012.4.16～19)	113	個人住宅	溝1、土坑3、陶磁器	市内15
62	築地3-5-11,14,19	(2012.6.11～21)7.23～8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡1、奈良平安時代住居跡1、溝6、縄文土器、銭貨、他	市内12
63	仲1-1-55,56,57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
64	築地3-4-9	(2012.6.7～15)	314	分譲住宅	溝4、近世の土坑、陶磁器	市内15
65	仲2-1-25,36	(2013.2.13～18)2.19～3.21	630	物置	奈良平安住居跡2、掘立柱建物跡3、土坑6、溝6、須恵器、旧石器	市内15
66	仲2-1-53,54		179	個人住宅		市内15
67	築地3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
68	築地3-5-1	(2013.3.7･8)	166	個人住宅	井戸1、土坑1、ピット4、須恵器、土師器等	市内15
69	仲1-51,53,55	(2013.9.10～11)9.12～17	298	道路築造	縄文時代集石土坑1、溝1	未報告
70	仲2-2-39,41	(2013.4.11～16)4.17～23	220	道路	奈良平安住居跡1、中世以降井戸1、集石土坑1、溝2	未報告
71	築地3-1-16,32,34	(2013.4.30～5.1)	240	分譲住宅	遺構なし、陶器片1	未報告
72	松山1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
73	築地3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡1、須恵器	未報告
74	仲2-1-37	(2013.12.24～26)	280	分譲住宅	井戸1、集石土坑1、溝2、土坑1、陶磁器	未報告
75	仲2-2-2	(2014.1.14～20)8.5～11	606	分譲住宅	平安住居跡1、溝3、須恵器、土師器	未報告
76	仲2-2-48	(2014.1.22～28)9.26～10.2	120	個人住宅	井戸1、溝1、土器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22～28)11.12～17	120	個人住宅	古代住居跡1、土師器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22～28)	362	造成工事	平安時代住居跡1、井戸2、溝2、土坑3、土師器、須恵器、中世陶器	未報告
77	松山2-6-2,3,12の各一部	(2014.3.3～12)3.13～27	493	個人住宅	平安時代住居跡1、ピット2、井戸1、土師器、須恵器	未報告
78	松山2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田395-1の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田411の一部	(2015.7.30･31)	194	個人住宅	溝1、遺物なし	未報告
83	仲1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝1、遺物なし	未報告
84	築地3-4-13	(2015.9.15･16)	455	宅地造成	平安時代住居跡1、井戸1	未報告

第 15 表　松山遺跡古代住居跡一覧表　(単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形( )は推定	規模	炉 カマドK	設置壁	カマド 規模 cm	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390×380	K	東	110×75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	〃	第1次2号住居	完掘	台形	360×320	K	東	120×85	○		国分前半		〃
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350×　×10	K	東		一部		国分後半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
4	〃	第3次4号住居	完掘	方形	530×475	K	北	200×100	○	N-14-E	国分後半		〃
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230×350	K	北→東		○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査14
6	〃	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	東		○		9C 2半期		〃
7	〃	第11次7号住居	完掘	正方形	400×400	遺存状態悪い			○		8C 4半期		〃
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×					N-10-E	8C 3半期		埋蔵文化財の調査15
9	1993	第15次9号住居	完掘		A440×350、B420×310、C260×300	K	東→北	A210×210、B210×210、C80×65	○		9C 1半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査16
10	〃	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	130×80	○		8C 4半期		〃
11	〃	第17次11号住居	完掘	方形	600×600	K	北		○	最大住居	7C 4半期	黒色土師器出土	〃
12	〃	第18次12号住居	完掘	方形	400×320	K	北		(○)		8C 4半期		〃と市史
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450×300	K	北		○	N-5-E	9C 1半期		松山遺跡第19次調査概要
14	〃	第19次14号住居	完掘	長方形	450×500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1半期	土錘出土	〃
15	〃	第20次15号住居	完掘	長方形	370×470	K	北西	70×70	○		7C 4半期		松山遺跡第20次の調査
16	1995	7年試掘(2)16号住居								N-20-W	6C		未報告
17	〃	第21次17号住居	完掘	長方形	480×400	K	北		○		7C 4半期		埋蔵文化財の調査19
18	1997	第22次18号住居	完掘	長方形	240×460	K	東	90×60	○	N-50-E	8C末		埋蔵文化財の調査20
	〃	第22次1号掘立	部分	長方形	東西5間 南北3間						8C末～9C初		〃
	〃	第22次2号掘立	部分	長方形	東西2間 南北2間						8C末～9C初		〃
	〃	第22次3号掘立	部分	長方形	(東西2間) 南北3間						8C末～9C初		〃
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290				○	N-30-W	8C後半	土錘6点出土	埋蔵文化財の調査21
20	1999	第25次20号住居									8C初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	〃	第25次21号住居									8C初頭		未報告
22	2000	第26次22号住居	完掘		360×	K	北		○		7C後半	14年度完掘、焼失住居	埋蔵文化財の調査23
23	〃	第27次23号住居	完掘	台形	600×720	K	北		○		8C半ば		〃
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西		○		8C中葉		埋蔵文化財の調査24
25	2000	12年度試掘5	2/3			遺存状態悪い							埋蔵文化財の調査23
26	2002	第29次26号住居	完掘	長方形	420×360	K	北		○		7C後半		埋蔵文化財の調査25
27	2003	15年度試掘27号住居	一部		(盛土保存)							プランのみ確認	埋蔵文化財の調査26
28	〃	15年度試掘28号住居	1/2		(盛土保存)							プランのみ確認	〃
29	〃	第30次29号住居	完掘	長方形	360×420	K	東		○		9C前半		〃
30	2005	第31次30号住居	完掘	長方形	360×600	K	北		○			土錘出土	市内遺跡群1
31	〃	第32次31号住居	完掘	長方形	380×330×	K	東		○	S-65-E	9C中葉		〃
32	〃	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東		○	S-85-E			〃
33	2006	40地点H33号住居	完掘	方形	455×420	K	北	98×154	○	N-5-E	8C後半		市内遺跡群3
34	2008	45地点H34号住居	完掘	方形	364×361	K	東	122×125	○	N-96-E			市内遺跡群6
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	504×(222)				○			焼失住居	市内遺跡群6
36	2009	49地点H36号住居	完掘	方形	280×290	K	東	105×100	○	N-92-E	8C後半	鍛冶炉1	市内遺跡群7
37	2010	54地点H37号住居	完掘	方形	434×524	K	北	70×86	○	N-13-E	8C1四半期		市内遺跡群9
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440)×468	K	東	95	○	N-107-E	8C1四半期	プラン確認	市内遺跡群9
39	2010	54地点H39号住居	完掘	方形	336×459	K	北	79×101	○	N-4-E	8C1四半期		市内遺跡群9
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300)×(320)	K	東	95×123	○	N-90-E	9C前半		市内遺跡群10
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北			N-18-E			市内遺跡群12
42	2013	65･66地点H42号住居		方形	460×440	K	東	110×106	○	N-62-E			市内遺跡群15
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	—	—	—	—	N-66-E			市内遺跡群15
	2013	66地点H43B号住居		方形	700×700	K	東		○	N-66-E			市内遺跡群15

第 20 図　松山遺跡遺構分布図（1/3,000）

の底部破片。38 は、遺構外出土の石鏃で、石質は黒曜石。長さ 1.9cm、幅 1.4cm、厚さ 0.3cm、重さ 0.54g。側面は直線的に整形され、全体的に剥離は細密である。

42 号住居は、出土遺物から 9 世紀前半、43 号住居は 8 世紀第一四半期に求められよう。掘立柱建物は、構築年代を示す確かな資料はないが、掘立の掘方などが乱れていることや掘立柱の掘方から出土した須恵器破片などから、43 号住居が廃絶後に建てられたもので 9 世紀中葉前後以降に短期間に繰り返し構築されたものと推定している。（笹森健一）

Ⅵ　松山遺跡第 67 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 1 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 2 月 19 日、幅約 1 mのトレンチ 1 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかったので、慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 50 ㎝である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅶ　松山遺跡第 68 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 2 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 3 月 7 日から 8 日まで、幅約 1 mのトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、中世の井戸 1 基と近世以降の土坑及びピットを確認した。

地表面から遺構確認面までの深さは約 40 ㎝であるが、20 ㎝の盛土を行うので、30 ㎝の保護層が確保できるため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

（2）遺構と遺物

【井戸】 調査区中央西側に位置する。確認面は隅丸方形に近い円形で、底面は円形。東側の立上りはテラス状の段を持つ。鉢と甕の破片が出土し、時期は中世。規模は第 28 表参照。

【土坑・ピット】 土坑 1 は断面半円形。トレンチ検出部のみ調査した。ピットは 7 基検出し、内 4 基を確認調査した。規模は第 28 表参照。

【出土遺物】（第 35 図 1・2）

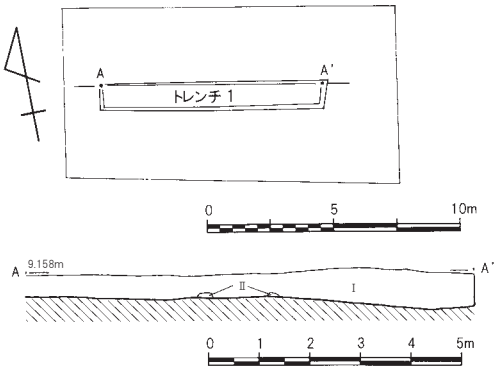
1 は陶器製の鉢で底部に高台が付く。内外面と割れ口の一部に擦痕調整と磨り跡があり、硯や砥石への転用が考えられる。常滑産か。

2 は須恵器甕で、外面叩き目、割れ口に擦痕調整、内面に磨り跡がみられる。転用硯か転用砥石とみられる。1、2 共に擦痕などの特徴があり興味深い。

第 28 表 松山遺跡第 68 地点土坑・井戸・ピット一覧表
（単位 cm）

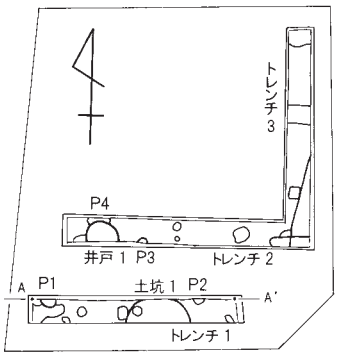
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	202×(91)	95×70	59.4	
井戸1	(円形)	128×(85)	(54)×53	121.6	
P1	不明	65×(27)	30×(15)	49.5	
P2	不明	46×(26)	13×(5)	58.2	
P3	不明	42×(21)	15×(6)	20.6	
P4	方形	23×22	15×11	57.0	

67 地点

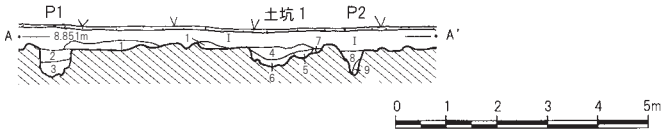


Ⅰ. 表土　黒色土　ロームブロック・砂利混入
Ⅱ. ハードローム　地山

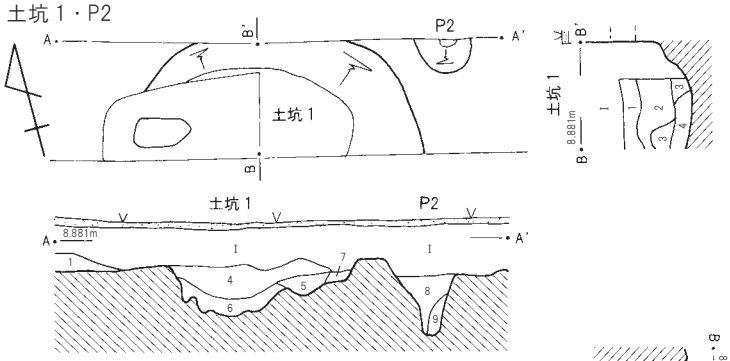
68 地点



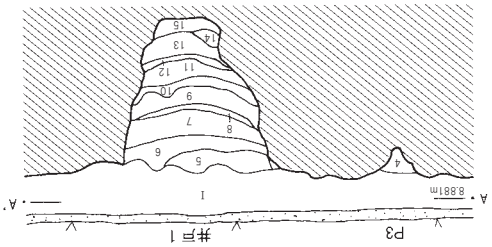
Ⅰ. 表土　暗褐色土　締り有、 硬い
1. 暗褐色土　締り有、 3mm 以下ローム粒多く含む
2. 褐色土　締り有、 ロームブロックとの混合土
3. 黒褐色土　締り有、 3mm 以下ローム粒少し、 焼土粒・炭極少し含む
4. 黒褐色土　締り有、 ロームブロックとの混合土

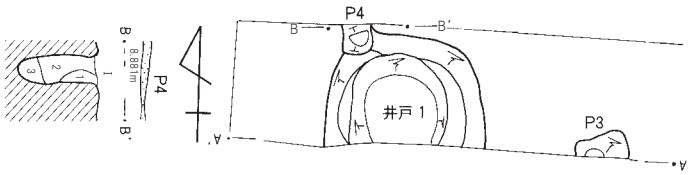


土坑 1・P2

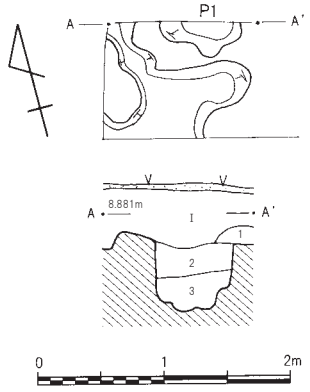


井戸 1・P3・P4

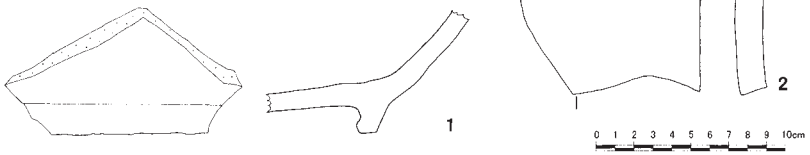




P1



井戸 1



トレンチ 1・土坑 1・P2
Ⅰ. 表土　暗褐色土　締り有、 硬い
1. 暗褐色土　締り有、 1cm 大ロームブロック極多く、 1cm 大黒色土ブロック多く含む
2. 褐色土　締り有、 ローム粒主体、 1 ～ 3cm 大ロームブロック極多く、 3cm 大黒色土ブロック少し含む
3. 褐色土　締り有、 ローム粒主体、 1 ～ 3cm 大ロームブロック・3cm 大黒色土ブロック多く含む
4. 暗褐色土　締り有、 5mm 以下ローム粒多く、 5mm 以下黒色土少し含む
5. 暗褐色土　締り有、 5mm 以下ローム粒少し、 5mm 以下黒色土多く含む
6. 暗褐色土　締り弱、 5mm 以下ローム粒極多く、 5mm 以下黒色土多く含む
7. ローム主体、 黒色土混入
8. 暗褐色土　締り有、 1cm 大ロームブロック多く、 5mm 以下ローム粒極多く含む
9. 黒褐色土　締り弱、 3mm 以下ローム粒少し、 焼土粒極少し含む

土坑 1
Ⅰ. 表土
1. 暗褐色土　締り有、 5mm 以下ローム粒多く、 5mm 以下黒色土少し含む
2. 暗褐色土　締り弱、 5mm 以下ローム粒極多く、 5mm 以下黒色土多く含む
3. 黒褐色土　締り有、 5cm 大以下ロームブロック多く含む
4. 暗褐色土　締り有、 5cm 大以下ロームブロック多く含む

井戸 1・P3
Ⅰ. 表土
1. 黒褐色土　締り有、 硬い、 3mm 以下ローム粒少し含む
2. 褐色土　締り有、 ローム粒主体、 黒色土混入
3. 褐色土　締り有、 ロームブロックと黒色土の混合土
4. 褐色土　締り有、 ローム粒少し含む、 自然の穴
5. 黒褐色土　硬く締る、 1mm 以下ローム粒多く、 焼土粒極少し含む
6. 黒褐色土　硬く締る、 1mm 以下ローム粒やや多く含む
7. 黒褐色土　硬く締る、 3mm 以下ローム粒多く含む
8. 褐色土　硬く締る、 5mm 以下ローム粒多く含む
9. 黒褐色土　締り有、 3cm 以下ロームブロック・3mm 以下ローム粒少し含む
10. 褐色土　締り有、 ロームブロック主体、 暗褐色土混入
11. 黒褐色土　締り有、 1cm 大ロームブロック少し、 1mm 以下ローム粒極多く含む
12. 褐色土　締り弱、 ローム粒主体
13. 黒褐色土　締り弱、 1mm ローム粒極少し含む
14. 褐色土　締り弱、 やや粘性有、 ローム粒主体
15. 黒褐色土　締り弱、 やや粘性有、 1mm 以下ローム粒極少し含む

P4
Ⅰ. 表土
1. 黒褐色土　締り有、 5mm 以下ローム粒少し含む
2. 暗褐色土　締り有、 3mm 以下ローム粒極多く含む
3. 暗褐色土　締り弱、 1cm 大ロームブロック多く、 3mm 以下ローム粒極多く含む

第 35 図　松山遺跡第 67・68 地点遺構配置図 (1/300)、68 地点井戸・土坑・ピット (1/60)

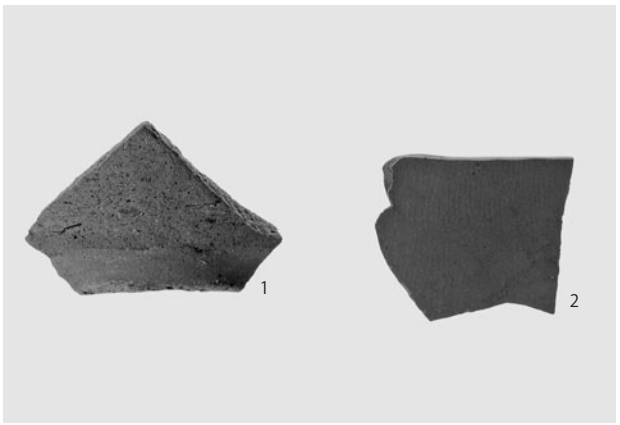
松山遺跡第 67 地点調査風景

松山遺跡第 68 地点トレンチ 2・3

松山遺跡第 68 地点土坑 1

松山遺跡第 68 地点井戸 1

松山遺跡第 68 地点井戸 1 遺物出土状況



松山遺跡第 68 地点出土遺物